

令和5年度 校内研究推進計画

1 研究主題

学びに向かう意欲を高める授業等の改善 ～探究心を育てる学習課題を通して～

【主題設定の理由】

本校は、平成22年度に3校が統合し因島南中学校となり、今年度で14年目を迎える。統合後は、生徒指導上の困難な時期もあったが、地域連携や小中連携を大切にしながら、生徒達に関わり、向き合い、指導する中で、現在は、少しずつ落ち着いてきつつある。地域の方々は、学校に対して大変協力的であり、様々な教育活動に対して温かく見守っていただいている。その意味でも、地域の方々に3校が統合したこの因島南中学校に「行かせてよかった」と思っていただけの学校に、そして、「学校が地域を元気にする」「因島南中学校を誇りに思ってもらえる」学校にすべく、地域とともに学校文化や学校風土を創り上げていくことが求められる。

本校では、学校教育目標を「社会で通用する基礎・基本を磨き、よりよい自分、学校、社会を目指す生徒の育成」とした。

生徒も職員も現状よりも上を目指す意識を高めるため、本校のスクール・スローガンを『自ら起点となり、本気・誠実・心根 温かくあれ そして本物たれ』～Be ambitious～とし生徒・教職員ともに向上心を持ち学校を運営していく。

標準学力調査や全国学力学習状況調査の正答率が県平均より下回っているなど、基礎学力の定着に大きな課題がある。その原因としてあげられる要素は、家庭学習習慣が確立していないことと、学ぶ意欲をもたせていないことにあると考える。

そこで、本校では、生徒の育成したい資質・能力を「基礎・基本」の力、思考力・表現力・対応力、高い志とチャレンジ精神」と設定し、生徒の学習に対する意欲を向上させ、表現力・思考力・対応力の育成を図るために、全教科の授業において生徒が主体的に学ぶ意欲を高める授業を展開することを目標とした。

具体的には、各教科の授業で、学習のねらいの提示の後、そのねらいを達成するための学習課題を提示する場面で、生徒が「なぜだろう」「もっと知りたい」「やってみたい」と思えるような工夫を行い、生徒の意欲・関心を引き出す。そして生徒のコミュニケーション能力を高めるために、互いの考えを深め伝え合う学習課題を設定し、教え合いなどの内容の工夫により、意欲的・主体的な学びを展開することをめざす。授業の終わりには、その学びを通してわかったことや気づきを、振り返りとしてまとめ、それを次の授業に活かす、という授業スタイルを全教科で展開する。

また、基礎的な知識・技能の定着のために家庭学習として、全学年5教科について曜日を設定し、提示したテーマに基づいた自学学習を課すなど家庭学習の充実をめざす。そして、その課題が定着したかどうか、小テストや定期試験などを通して確認する。また、毎週水曜日に5教科のドリル学習を行い、学力の定着が不十分な生徒に対しては個別指導に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能の習得をめざす(学びのサイクル)。また、毎学期の学習目標・生活目標とそれに対する振り返りを行う時間を設定し、それを記入したり、表現したりする時間を確保する。

毎日の生活ノート(ステップアップ)の記入や行事での振り返りなどの記入も量や記述内容テーマを提示し、思考力・表現力を深める取組を取り入れる。学習過程において表現力を高めるには、ねらいを達成するための学習課題を工夫し、生徒の意欲・関心を高めることで、自分の考えをもつ場、学び合い伝え合う場、振り返りの場を通して、表現力を育成し、主体的な学ぶ意欲的な生徒を育成する。

2 研究のねらい

全教科において、教科のねらい達成に向けて生徒の意欲を高めるために、学習課題をどのように工夫することが有効なのか、授業実践・授業交流を通して明らかにする。

3 研究の仮設

ねらい達成のための学習課題を工夫した教育活動を行うと、生徒の学習に対する意欲や探求心が高まり、家庭学習の習慣が身につく、基礎学力が定着するであろう。

4 研究の内容

- (1) 全学年、全教科を通じて、授業スタイルを確立し、ねらい達成のための学習課題が工夫された授業を展開する。
- (2) 年間3回、校内での授業参観週間を設定し、全学年・全教科を通じて、学習課題の提示や内容について交流する。
- (3) 家庭学習の定着に向けて自学学習を充実させ、確認テスト等の取組を行う。

5 主題について

- (1) 本校における「表現力」とは
 - ・感じたことや考えたことを伝え合うコミュニケーションを通して、意見発表やプレゼンテーションソフトを利用した表現の場を設定し自分の考えの根拠や理由を明らかにし、相手に分かりやすくまとめ、自分の言葉で表現できる力である。
 - ・地域の創作ダンスや合唱や縦割り活動を通して自分の考えや集団で伝えたいことを表現できる力である。
- (2) 本校における「学習課題の工夫」とは
 - ・各教科のねらいを達成するために行う学習課題の提示や内容において、生徒の意欲や興味を高め、生徒が主体的に学ぶ工夫を行うことである。
 - ・タブレットや電子黒板の活用を進め、板書（黒板）と併用させて基礎学力の定着を図る。また、そのための効果的な活用・併用に関する研修を実施する。

6 校内研修計画

月 日	研 究 内 容	講 師
毎月2回以上	タブレットの有効活用	
5月10日(水)	教育研究推進計画,南中タイムについて	研究主任
5月15日(月)	校内研修	井原アドバイザー
6月12～23日	校内授業参観週間①	
6月22日(木)	校内研修(評価について)	教務主任
7月28・29日	分掌会・校内研修計画	教務主任・研究主任
8月 予定	校内研修(生徒指導)	中司スクールカウンセラー
8月18日(金)	校内研修(授業公開に向けて)	研究主任
8月24日(水)	I C T活用研修	NTT・杉本利江
9月 予定	校内授業参観週間②	
10月11日(水)	授業公開	市教委指導主事 大学講師
11月 予定	道徳公開	
12月 予定	校内研修(2学期の振り返り)	
2月 予定	校内授業参観週間③	
3月 予定	校内研修(1年間のまとめ)	

7 研究の評価

評価の観点	(1) 生徒が、意欲・関心をもって授業に臨むことができたか。 (2) 生徒が、意欲的に交流を行い、自分の言葉で表現することができたか。 (3) 家庭学習課題を継続して充実させることができたか。
評価計画	(1) 生徒による自己評価と分析の実施（生徒アンケート集計結果の分析）・・・ 「できた・わかった」と授業で感じている生徒の割合 85%以上（昨年度79%） (2) 「自分の意見を、言葉の使い方や表現を工夫しながら伝えることができる」 生徒の割合 80%以上（昨年度 72.5%） (3) 生徒による自己評価と分析の実施（生徒アンケート集計結果の分析）・・・ 家庭学習を1時間以上している生徒の割合 80%以上（昨年度74%）